# フィールドの風（現場）からの

613

宮田守男

## 地域づくりを平常時から考える事が大切だ

台風10号は、これまでにない台風進路に驚かされた。温暖化による自然現象が今後どうなるのか心配になる。豪雨などによる大小さまざまな災害に国等が行う国庫補助事業は基本的には元の形に復旧することが基本だが、原形に復旧することが困難な場合や不適当である場合には、これらに代わる施設で復旧することも原形復旧とみなしている。

今の日本の現状は少子高齢化で人口減が顕著な地域も多く原形復旧を望まないケースも多発している。いざ災害になった場合に、望む地域振興の計画を事前に策定させ、住む地域で継続して生活できる災害復旧の在り方を考えるべきではないだろうか。

台風が通過して秋風を感じ虫の音を楽しむ時期、昨日は梵天丸と呼ばれた時代に疱瘡を病み、片目に黒い眼帯を掛けた姿で知られる伊達政宗の誕生日。朝鮮出兵の出陣式での伊達の軍勢が着用していた戦衣装が、とても豪華できらびやかだったことから、今でも通用する「伊達男」の言葉だが、彼が詠んだ「むしのねは　涙もよほす　夕まぐれ　さびしき床の起伏しもうし」政宗の身なりだけでない教養でも伊達さを感じる歌でもある。

子どもの歌づくりに力を入れた詩人のサトウハチロウの「ちいさい秋みつけた」の歌詞は子供の頃、家で見つけた自分だけの秋の記憶だ。「だれかさんが　だれかさんが　みつけた　ちいさい秋　ちいさい秋　みつけた」誰もが幼年期の懐かしい思い出がある。林のそばの田んぼの上空に乱舞するトンボを眺めていると、自然豊かな故郷の情景が長く続いてほしいと願ってしまうが、耕作地の荒廃は驚くほどに進んでいる。地域全体の土地利用計画の在り方を従前の考え方から大きく変える時期になったと判断すべきだろう。食糧不足を補うために土地を可能な限り開墾して農地利用した時代の土地利用のままが本当に良いのか、広大な農地を所有する地権者の資産継続を望む人は限られている。

パラリンピックの父と称されるグトマン医師の言葉「失われたものを数えるな。残ったものを最大限生かせ」パリパラリンピックで躍動する選手たちの姿に感動している人は多いはずだ。地域資源を最大限生かした地域活性化策を望むばかりだ。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

台風で心配されたソバ倒伏の被害は少なかったようだ。新そばに期待だ